令和3年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　広徳　　中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日（木）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、数学）

教科に関する調査（国語，数学）
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

⑴ 全国・本市の学力調査（国語，数学）の結果

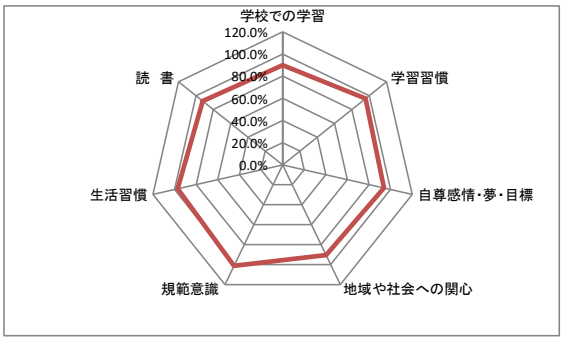
本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	8.8	55
全国	9.0	65	9.1	57

⑵ 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	漢字の読み書きや、話合いの話題や方向を捉える問題は概ね理解できている。文章に表れているものの見方、考え方を正しく捉えることや、文脈を理解して語句の意味を正しく理解する問題に課題がみられた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	書くことや、書く能力が必要とされる問題	
	努力が必要な問題	文章を読むことや、読み取る能力が必要とされる問題　言語についての知識・理解・技能が必要とされる問題	

数学	全体的な傾向や特徴など	関数などは概ね正答率が高い傾向が伺えたが、整式の加法と減法の問題など全国正答率が高い問題で課題がみられた。ケアレスミスなどが推測される。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	扇形など図形の問題や関数の意味理解についての問題	
	努力が必要な問題	数学的な見方や考え方が必要な問題、記述式の問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・質問「教科の勉強は好きですか」では複数の教科で肯定的な回答がみられた。 ・質問「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）」では全国を上回るなど、Kワークの取組の効果が伺える。 ・「普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間，テレビゲーム（コンピュータゲーム，携帯式のゲーム，携帯電話やスマートフォンなど）をしていますか」の質問で3時間以上している生徒割合が全国を上回った。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

教科の勉強は好きな生徒が多くみられたが、授業の内容の理解や、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりすることに課題がみられた。小中9年間「めあて」「まとめ」の表示を統一し、ICT機器も活用してアクティブラーニングに努める。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭での勉強時間は、平日は全国と同じだが、土日に課題がみられた。また携帯、テレビなどの長時間の使用もみられた。
・いっぽうデジタル機器の家庭でのルール決めは全国と同じ割合できていることから、使用時間を家庭で明確化したり学校ではKワーク等で過ごし方を計画化したりして目標設定をする。